

2011. 11. 25.

Syohou

所報

川崎市総合教育センター
〒213-0001 川崎市高津区溝口 6-9-3
TEL 044-844-3600
代表メール KEI130201@to.keins.city.kawasaki.jp
ホームページ http://www.keins.city.kawasaki.jp/

特集

授業力 こだわりハンドブック



4月に「授業力こだわりハンドブック～笑顔で授業を語ろう～」を配付しました。先生方に手に取っていただき、ご自身の授業を振り返ったり、授業について語り合ったりするきっかけになることを願っています。



豆電球とストローとジュース ～今こそ、授業のことを語り合ってみませんか～

川崎市総合教育センター所長 竹田 文夫

「教科書が厚くなって指導内容が増えたので、授業の進度を速めなければ…」

新学習指導要領の実施で、学校現場の先生方にこのような声が広がるのではないかと心配しています。先を急ぐあまり、子どもの疑問や課題意識を無視した知識伝達型の授業が多くなるようであれば、学習指導要領の理念とは相反する結果につながりかねません。

学習指導要領の改訂で時数と指導内容が31年振りに増加に転じた今こそ、子どもにとって「よい授業」とはどのような授業なのか、授業の本質について原点に立ち返って考えてみる必要があるのではないかと思います。

授業をテーマにした研究協議会の終了後、ある先生が、「一人ひとりの子どもが授業の中で幸せを感じることを大切にしていきたい」という感想を寄せてくれました。今まで考えてみたこともなかったその先生の一言が強く心に残りました。

子どもが授業の中で幸せを感じるってどんなときだろう。ある大学の先生*が紹介していた、小学校3年生の理科の授業場面が思い浮かびました。「豆電球に明かりをつけよう」という学習で、子どもたちは導線の長さや太さを変えても回路をつくれれば豆電球が点灯することを確認していました。その時、一人の子が導線を直角に何回も折って回路をつくっていました。先生が「どうしてそんな風に線を折っているの」と尋ねると「ジュースを

飲んでいた時、ストローが折れると飲めなくなったので、導線も折り曲げると電気が流れないかと思った」と言いながら、豆電球が点くかどうか調べていたというのです。先生は、その場面を見逃さずに取り上げクラスで共有し合うことで、子どもたちの理解をより深めることができました。

このように、一人ひとりの子どもの考えが認められ、共有されることで、授業の中に自分の居場所があることを実感できること、それが子どもにとっての幸せなのではないでしょうか。

授業の中で、子どもにどのような出会いをつくり、どのような学びの場を創造していくか、子どもの豊かな学びを実現できるかどうかは教師の「授業力」にかかっています。教師の果たすべき役割は大変重要です。それはなかなか難しいことですが、教師として最もやりがいのあることではないでしょうか。

校内研修としての授業研究では、子どもたちの学びや成長の姿が語られているのでしょうか。また、校内に、職員室等で日常的に授業について語り合える雰囲気が醸成されているのでしょうか。多忙な毎日であるからこそ、授業について、子どもの学びについて、構えることなく悩みを出し合い、語り合える教職員集団であることが求められていると思います。

今こそ、授業のことを語り合ってみませんか。

* 矢野英明帝京大学教職大学院教授

— 『所報』第2号 主な内容 —

【特集】授業力こだわりハンドブック …… 1～3	特別支援教育センター …… 6
学校・学級で連携できる人的支援、 わが町かわさき映像創作展 …… 4	教育相談センター …… 7
情報・視聴覚センター …… 5	コラム …… 8

笑顔で授業を語る

「授業力」は実際の授業を通してしか身に付けていくことができません。そして、「笑顔で授業を語り合う」ことこそが、授業力向上の鍵ではないでしょうか。

かりものでない**自分の言葉**で授業を語ろう

カリキュラムセンター担当課長 佐藤 公孝

「授業力」ってなんだろう？

自分なりに授業力の定義について教育書を調べては読み、調べては読みました。「頭では理解できるのだけど、どうもしっくりこない」という感覚をかなり長い期間引きずっていました。そんな感覚のまま、このハンドブックの作成が始まりました。まず、すべての指導主事に、自分が考える「授業力」を文章にしてもらいました。

その文章からは、短い文章ではとても定義できない一人一人の経験から出てきた授業への「願い」「謙虚さ」「内省」「子どもの姿」「苦い思い出」等、まさに多様でした。しかし、定義することが大前提にあった私は、すべての文章の中から「なるほど」「重要だ」と感じたところに下線を引いてもらうことにしました。その重なりからなんとか授業力を定義しようとしていました。今、考えてみると、流行りの人気ランキングから授業力を決めようとしていました。そんな中、編集の話し合いで、「自分たちはたくさんの授業を参観させていただいているのだから、そのことをもっと大切にしたい。定義することにどんな意義があるのか？」等の意見を多く受けてしまいました。正直、落ち込みました。

しかし、一度授業力を定義することを完全に頭からはずして、文章を読み直してみると、そこには同僚たちのかりものでないみずみずしい言葉があふれていました。あらためて自分の言葉で授業を語ることの大切さに気がついた瞬間だったと思います。そのときの自分の感覚を「こだわり」という言葉に込めることにしました。

失敗ばかりしていましたが、授業づくりが好きだった自分が、今、学校から離れてセンターからできること、少しでも学校や先生方を元気づけ、笑顔で授業について語っていただけるハンドブックを同僚であるセンターの全職員と力を合わせて作っていきたくと考えました。薄くて、まず、開いていただけることにもこだわりました。

現在、好評につき！「授業力ハンドブック2（最終章）」を編集しています。かりものでない自分の言葉で授業を語るの幸せを感じています。



P.9

自分の授業を見つめよう

カリキュラムセンター
国語科担当
須山佳代子
指導主事



押入れのどこかに、二度と聞きたくないカセットテープがあります。それは私の授業の音声記録です。耳に馴染みのあるトーンとは微妙に違う、きんきんと響く自分の声が延々と続きます。先生がしゃべりすぎ、「やっではいけない」授業の典型です。

先生が説明上手であることが、子どもの力をつけることにつながるとは限らないことに気付いている多くの皆様方より、よくいただくご質問があります。「それは聴いて考えてつなげる」授業づくりについてのお尋ねです。

おそらくは聞く力をどう鍛えるか、ということにつきますので、まずは学習活動にできるだけ「対話」を取り入れることをおすすめします。対話では話題に沿った双方向のやりとりが求められます。即興的に「相手の話を受けて返す」ことを通して、自分の思いや考えを広げながら、言葉の力とともに人とかかわる力が育ちます。

もう一つは小学校低学年限定ですが、直前に発言した人の話を簡単に「復唱」してから自分の発言をさせることです。これは横浜国大の高木展郎先生に教えていただきました。話を注意深く聞く態度と再現する力を育てます。あの頃、この二つを心がけていれば、とつくづく思います。

「あーっ！」(気づき・発見)「いや、ちょっと」(反論)「うーん」(沈黙・葛藤)「えーっ！」(驚き)「おーお」(納得)。

子どもたちが思わず「あいうえお」の声を上げてしまうような授業づくりをめざそうと心掛けるようになってから、少しずつ自分の授業が変わってきたような気がします。子どもたちと一緒に、授業を楽しめるようになってきたといえばその感覚が伝わるかなあ…。

うまくいかないこともたくさんありましたが、実践を重ねるなかで自分なりにコツをつかんできました。それは、「ねらって仕掛ける」ということ。たとえば、この場面で「えーっ」と言わせようと決める。そして、「そのためには…」と具体的な手立てを用意する。自分から仕掛けているから、「ここだ！」という場面では子ども達の反応を待つ…(お願い、みんな驚いて!!)…。

こんな駆け引きが、大好きなんですよね。「あいうえお」の授業づくりおすすめです。

カリキュラムセンター
社会科担当
南谷 隆行
指導主事

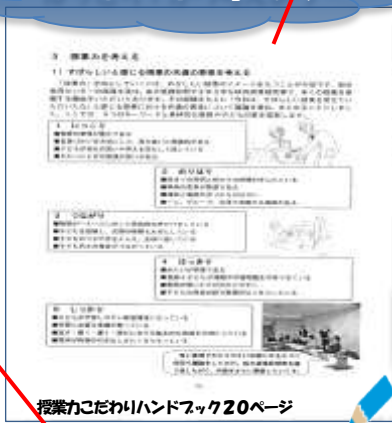


授業力を考える

桜本中学校での拡大要請訪問では、授業力をテーマに研修を行いました。隣の席の先生と今日の授業について5つのキーワードをもとに話し合いました。「にっこりはなかなかよかった!」「生徒と生徒の発言をつなげることが難しい。」「そうだね。自分も・・・。」と授業を振り返って語り合う中で、「明日の授業では・・・。」と熱く、尽きることなく会話が広がっていました。



はっきり! から考えよう



拡大要請訪問後、「表現意欲がわく活動」を意識しています。1年生では「大切な人紹介」のスピーチを行いました。大切な人の似顔絵をテレビに映し出して生徒が話を始めると、聴き手の生徒たちの目は輝き、自分ももっといい発表をするぞという意識の高まりを感じました。また、全学年でコロラドの中学生との文通に挑戦しています。英語の手紙を必死に読み解いて、自分は何について書こうかと一生懸命考える姿に意欲の高まりを感じています。考えたり、表現したりすることを楽しむ場面を、毎日の授業に組み込んでいけたらと考えています。

桜本中学校 亀山 弘二郎 先生 (英語科)

5つのキーワード

「にっこり」「めりはり」「つながり」「はっきり」「しっかり」

初任者宿泊研修のスキルアップ研修では4月からの自分の授業について振り返りを行いました。まず、5つのキーワードを「できていると思う」順に並べてみました。そして、「できていないと思う」ことと課題と感じていることとの関連を考え、課題解決に向けて具体的なアイデアを話し合いました。仲間と語り合う中で、課題を前向きにとらえ、「早く子どもたちに会って、授業がしてみたい。」と目を輝かせる先生方を頼もしく思いました。



めりはりが大切!

私は発問の大切さに気付きました。班の仲間からも発問の仕方によって、子どもの発言がずれたり、何度も言い直して誘導的になってしまったりするという話を聞きました。発問の一言で、授業が変わります。学年主任の先生に「発問を考えなさい。」と言われてきたことを思い出しました。9月からは、子どもたちに問いかける言葉を気にするようになりました。しっかり考えたつもりでも、子どもたちの反応を見ると「違ったかな。」「話すぎたかな。」と感ずることが多いです。改善できたとは言えませんが、自分の課題を明確にして、意識して授業に臨んでいきたいです。

栗木台小学校 立花 沙織 先生

笑顔で授業について語れる学校の雰囲気をつくろう

授業力を考えるとき、授業そのものをみんなで議論する校内授業研究の重要性は誰もが認めるところだと思います。授業力向上支援事業協力校の一つである岡上小学校の校内授業研究では、「語り合うこと」を大切にした授業研究を実践しています。「〇〇さんの発言が・・・」「私もその発言が気になっていて・・・。」と子どもの発言や表情など具体的な姿から授業について考え、先生方の発言がまさに「つながって」いました。

研修*に参加して、授業研究会では「何について話し合うかを明確にすること」「話し合いの結果を可視化すること」が大切であると学びました。今回の授業研究では「明日の自分の授業に返せるような視点を設定して授業を見ること」「視点に合わせてグループの構成や分析の方法を選択すること」を実践しました。授業についての話題が広がればと考え、授業力向上通信の発行もしています。あっという間に今年の研究も折り返しです。みんなが充実感をもてる授業研究をめざして、工夫していきたいと思っています。

岡上小学校 川嶋 裕敬 先生 (研究主任)



*センターでは本年度、「研修の進め方」研修を新設しました。授業について語り合い、自分自身の授業を振り返る場となるように、参加者の先生方と各学校に応じた授業研究の活性化について考えました。来年度も開設する予定です。

学校・学級で連携できる人的支援



名称	活用法	担当 (TEL)	備考
特別支援教育 サポーター	特別な教育的ニーズのある児童生徒への支援	NPO 教育活動総合 サポートセンター 877-0553	通常の学級・特別支援級を問わない。年2回申請
巡回指導員	通常の学級に在籍する特別な教育的ニーズのある児童生徒の担任への指導助言	特別支援教育センター室長 844-3740	学校長から申込書を送る 随時受付
巡回相談員	特別な教育的ニーズのある児童生徒・保護者、学校への支援	特別支援教育センター 844-3742	前年度中に希望を集約 隔年で派遣
理科支援員	小学校理科授業の一層の充実、観察・実験活動等の準備や片付け、実施等の支援	カリキュラムセンター 844-3723	小学校 5・6 年生を対象に 全校配置
スクールカウンセラー	不登校をはじめ教育相談全般	教育相談センター 844-6701	中: 全校配置
学校巡回 カウンセラー	不登校をはじめ教育相談全般	教育相談センター 844-6701	小: 要請派遣 高: 巡回派遣
A L T 配置事業	小・中・高等学校におけるコミュニケーション能力の育成	カリキュラムセンター 844-3721	小: 35 人 中: 22 人 高: 5 人 (平成 23 年度現在)
日本語指導等 協力者派遣事業	外国人児童生徒等に対する初期の日本語指導	カリキュラムセンター 844-3733	
講師派遣事業	各学校の教育課程編成、研究・研修活動等のために講師派遣を行い、教育活動等のための支援	カリキュラムセンター 844-3721 * 一般講師派遣は所定の申込書。アドバイザーは、横浜国大のインターネット上から	* 一般講師派遣は、原則1回のみ、アドバイザースタッフの派遣は、回数の設定はない。 予算内で申し込み順
要請訪問	校内授業研究推進のための支援	カリキュラムセンター 844-3721	若手教員の授業力向上にも 対応
初任者研修等 指導員配置事業	初任者を対象に研修巡回指導による支援	NPO 教育活動総合 サポートセンター 877-0553	22 名の指導員配置



第29回 わが町かわさき映像創作展



◆◆◆ 募集期間 平成 23 年 10 月 3 日 (月) ~ 平成 24 年 1 月 13 日 (金) ◆◆◆

地域紹介、自然や環境を見つめたもの、子どもたちの楽しい劇など、アイデアいっぱい、ユーモアいっぱいの川崎市にかかわる作品をお待ちしています。

募集の内容	過去2年以内(他のコンクール等で入賞した作品は除く)に制作された15分以内のビデオ作品(DVD、ミニDV、VHS)とし、応募作品数の制限はありません。制作にあたっての技法及び機器は問いません。
テーマ	川崎に関する作品及び自由テーマ
表彰	表彰式 平成24年2月25日(土) 川崎市総合教育センター ◆ グランプリ(1点) 賞状・盾 ◆ 金賞(1点) 賞状・盾 ◆ 銀賞(2点) 賞状・盾 ◆ 優秀賞(4点) 賞状・盾 ◆ 奨励賞(若干名) ※ 入賞は1人1点とします。
著作権処理について	入賞作品は、川崎市視聴覚センターで一般貸出しを行います。必要な著作権処理の手続きを済ませてからの応募をお願いします。
応募・問合せ先	〒213-0001 川崎市高津区溝口6-9-3 川崎市総合教育センター 情報・視聴覚センター (土・日曜日・祝日・年末年始休み) TEL: 044-844-3711 FAX: 044-844-3651 E-mail KE130201@to.keins.city.kawasaki.jp ホームページ http://www.keins.city.kawasaki.jp/

授業での幅広い活用を!

授業でのインターネットの活用につきましては、これまで「Web ページになかなかつながらない」などのご不便をおかけしておりましたが、10月中旬より回線の拡充により Web ページの閲覧が以前よりスムーズにできるようになりました。

「これは使える!」と思えるデジタル教材(コンテンツ)を載せている Web サイトをぜひ探してみてください!

なお、Web 閲覧の際は市内すべての学校の通信環境に影響を及ぼすこともありますので、右記の点には十分気をつけてください。



- ・授業と関係のないページの閲覧はしない!
(ウイルス感染の恐れもあります)
- ・異なるページを閲覧する際、スムーズに閲覧できないときは、時間をずらしてみる等の工夫を!
- ・一斉に同じページを閲覧する場合は、先生機から 50 インチテレビやプロジェクターで大写しにして活用を!

<教育用コンテンツ Web サイト紹介>

◆ NHK for School

NHK 放送番組やクリップ、教材ゲーム等がインターネット配信されています。

NHK ティーチャーズ・ライブラリー (DVD を貸し出ししています。)

◆ 理科ねっとわーく (独立行政法人 科学技術振興機構制作)

理科系のデジタル教材が多数。教員用はユーザーID 取得が必要です。

◇学習リンク集…その他、総合教育センタートップページ (ケインズ) にも学習リンク集があります。

1月導入

活用しよう! 教材提示装置

50 インチテレビが各教室に配置されたことにより、脚光を浴びている機器が「教材提示装置 (書画カメラ)」です。

来年 1 月までに、市立小学校、高等学校、特別支援学校 (※中学校はすでに各普通教室分整備済) に教材提示装置 (ワイヤレスで画面への書き込みや画面の保存等ができるペンタブレット付) が 3 台ずつ配備されます。



様々な場面で、授業者・子どもたち双方で活用していくことで授業の幅が広がることを期待しています。なお、情報教育学校担当者会等で活用のための研修をおこなう予定です。

第5版

~5分で分かる~

情報モラル教育 Q&A

新学習指導要領で情報モラルの指導が明記されています。子どもたちが情報社会で健やかに育っていけるよう、情報モラルについてしっかり指導していくため本冊子を作成しています。また先行研究や有効なコンテンツも紹介しています。各学校で年間の指導計画作成や校内研修の参考に、ぜひご活用ください。

※各校 6 冊お配りしています。



! 不要なメールは定期的に削除を!

受信メール

送信メール

添付ファイル

センターのメールサーバーの空き容量が少なくなってきました。古いメール (送信メール・受信メール) の削除を定期的にお願います。(特に容量の大きい添付ファイルは、すぐに取り込んで削除しましょう!)

落ち着きのない子、集中しにくい子、理解の難しい子…教室の中にいるすべての子どもにとって、参加しやすい教室、わかりやすい授業を心がけましょう。子どもたちが聞きたくなり、見たくなる、そして、「わかった!」「できた!」と思える工夫について、市内の学校の取組からいくつかヒントをお伝えします。

学習環境を整えよう

教室の中の掲示物、友達の様子や持ち物、廊下や窓の外…授業中も教室内はいろいろな刺激に溢れています。視覚刺激や聴覚刺激に弱い子どもたちは、なかなか集中できません。特に教室の前面は必要以外のものは目に入らないようにし、できるだけすっきりと整理した教室で、板書に意識が向くようにしましょう。



ドアや窓の下半分に半透明シートを貼る



突っ張り棒や両面テープと布で目隠しする

当番の仕事など一定の手順で進める場合は、掲示した手順を裏返していくことで、どの子ども流れに沿って取組みやすくなります。



掃除用具入れやファイル、



プリント類は、それぞれの収納場所を明示し、ラベルを付けたり色分けしたりすることですっきり整頓できます。準備や片付けもスムーズです。

グループごと、番号順などに分けてケースに収納することもわかりやすいです。



指導の方法を工夫しよう

私たちが仕事をするとき、目標や内容、方法や日程がわからないままでは取組みようがありません。子どもたちが授業に向かうとき、目標や内容、時間を示さないまま「がんばれ」と言うことはないでしょうか。1時間の授業の流れを視覚的に示すことで、見通しを持って取組むことができます。また、作業の時間がいつまでか、終わりの時刻を模型の時計で示すと、切り替えが苦手な子、集中しにくい子も参加しやすくなります。



おわり

ノートをとることが苦手な子には、ワークシートを用意したり写す部分を限定したり、量を加減すると「できた」喜びを味わうことができます。ノートと同じ升目のミニ黒板や実物投影機を利用したり、手本を手元に置いて写したりするのもよいでしょう。



ノートや教科書を開きやすいように、毎時間の終わりに付箋やクリップを活用することも有効です。

◆教室環境や授業のヒントを知りたい方に◆

「通常学級での特別支援教育のスタンダード」
日野市公立小中学校全教師・教育委員会、小貫悟 東京書籍
「発達障がいを持つ子のいいところ応援計画」
阿部利彦著 ぶどう社

◆子どもの特性について知りたい方に◆

「おっちょこちょいにつけるクスリ」
高山恵子・えじそんくらぶ著 ぶどう社
「自閉っ子におけるモンダイな想像力」
ニキ・リンコ著 花風社

◆特別支援教育指導に役立つ図書を探している方に◆

「SSTワークシート自己認知コミュニケーションスキル編」
「SSTワークシート社会的行動編」 かもがわ出版
*巡回相談員の安住ゆう子先生、三島節子先生が執筆にかかわっています。

ティーチャーズ

T'sスクエアで借りられます!

総合教育センター2Fで借りて、読み終わったら集配で返却できます。

教育相談センター

学校に行きたいのに行けない、学校に行こうとすると身体の不調を訴えるなど、不登校の状況であったり、その兆候が見られたりする子どもやその保護者に対して、次のような教育相談を実施しています。

電話相談

☆電話による最も簡単な相談方法です。相談者の名前や学校名を尋ねることはありません。

○電話相談（平日午前9時から午後4時30分まで） → ☎（044）844-3700

○電話相談（毎日午前9時から午後6時まで） → ☎（044）541-3633

○子ども専用電話相談（平日午前9時から午後4時30分まで） → ☎（044）844-6700

○24時間電話相談（24時間いつでも。ただし、年末、年始を除きます） → ☎（044）522-3293

※電話相談では、不登校以外の相談をすることもできます。

来所面接相談

☆子どものことについて一緒に考えるための、担当者との面接による相談です。子どもも来所できる場合には、保護者とは別の担当者がお会いします。（予約制となっており、保護者からの申し込みを原則としています）

○塚越相談室 → ☎（044）541-3633

○溝口相談室 → ☎（044）844-3700

※どちらの相談室も平日の午前9時から午後5時まで（申し込み受付時間も同じです）

※来所面接相談では、不登校以外の相談をすることもできます。

家庭訪問相談

☆学校に行けないだけでなく、家に閉じこもり気味でほとんど外出ができない状態の子どもを対象にした相談です。あらかじめ訪問日を決め、担当者が自宅を訪問します。（必ず保護者がお申込みください）

○家庭訪問相談申し込み専用電話 → ☎（044）522-3534

※受付は平日の午前9時から午後5時まで

※家庭訪問相談の実施は平日の午前9時30分から午後4時まで

（祝日および昼12時から午後1時を除きます）

ゆうゆう広場（川崎市適応指導教室）

☆不登校の状態にある児童生徒を対象にした少人数による集団活動の場です。

川崎市内に5ヶ所（「みゆき」「さいわい」「なかはら」「たま」「あさお」）の広場を開設しています。

見学の希望やお問い合わせは、どの広場についても「ゆうゆう広場さいわい」が窓口になっています。

（必ず保護者がお申込みください）

○見学やお問い合わせは「ゆうゆう広場さいわい」へ → ☎（044）544-6381

※受付は平日の午前9時30分から午後4時まで



ユングという心理療法家がつくった「内向」「外向」という言葉を知らない人はいないであろう。ところがこの概念は有名になったのはよいのだが、本来の意味とはかなり異なる使い方をされてしまっている。実は、奥の深い、生徒理解にも役に立つ概念なのである。

まず具体的な話からはじめよう。ウィックスという心理療法家の挙げた例をアレンジしながら説明をしていきたい。小学校低学年のクラスで、図工の時間を使って、親への感謝のプレゼントを子どもたちが製作しているとしよう。まだ低学年の子どもたちなので、担任は、ヒントを与えたり、ちょっとした手伝いをしてあげたりしていた。そのときAちゃんの姿が目止まった。がんばっているのだけれど、行き詰っていたので、他の子どもたちにしたのと同じように、ハサミで色紙を切ってあげ、難しい糊付けを手伝ってあげた。するとAちゃんは先生の思惑とは異なり、泣き出したのである。「これは私の作品じゃない。私の作ったものをお母さんにあげたかったのに」というのである。一方、同じクラスのBちゃんにも、担任は同じことをしていたのであるが、Bちゃんは大喜びで、「素敵。これをあげたらお母さんきっと喜ぶわ」と言ってもらったばかりだったのである。

さて、Bちゃんは素直な子で、Aちゃんはひねくれているのだろうか？ Aちゃんにとって、お母さんにあげたかったのは、自分自身が作ったものであって、先生が手伝ってしまえば、自分の作品ではなくなってしまうと考えている。Bちゃんは、「素敵な作品」をお母さんにあげることが嬉しくて、先生が手伝ってもらったことは問題ではないのである。さて、ここで内向・外向というタイプ論の登場である。内向的な子どもにとって大切なのは、自分の内側にあるものであり、自分が考えたこと、自分の手で作り上げたものなのである。一方、外向的な子どもにとっては、プレゼントそのもの（つまり自分の外側にある作品そのもの）の美しさ、できのよさが重要なのである。もう少し抽象的にいうと、内向的な子どもの価値基準は自分の内側にあり、外向的な子どもは、外側の世界に基準があるのである。

さて、皆さんは、AちゃんとBちゃんとどちらの子をより好ましいと感じるだろうか。Aちゃんを自分の考えがしっかりしていて独創性のある子と評価するか、Bちゃんを周囲と調和しながら、他者のかかわりを受け入れ

る子と評価するか。Aちゃん派は、その人自身も内向に親和性があり、Bちゃん派は外向派である。誰でも内向性・外向性はもちあわせているけれど、どちらかが優勢になっていて、それは生まれつきのものだとユングは考えた。そして、内向・外向に評価を下すのは、周囲（集団）なのである。内向的な子どもは、自分の内側に基準があるので、言われたことをすぐには受け取らず、一度自分の中に落とし込んで考えるので、反応が遅いことが多く、頑固という評価を受けることがある。新しい環境になじむのにも時間がかかる。一方、外向的な子どもは、反応がすばやく周囲の状況が大切であるので、クラスや担任の気持ちを知らず知らずのうちに自分のものとする傾向がある。担任が内向優勢だと、内向的な子どもを独創的と見なすだろうし、外向的な子どもを自分の意見のない子と感じるだろう。一方、担任が外向優勢の場合は、内向的な子どもは頑固で遅く、協調性がない子と見なし、外向的な子どもは反応がすばやく周囲に目が届く子どもと見なすだろう。

今、日本も「グローバリズム」の波で、外向性が尊ばれるようになってきたので、内向的な子どもは分が悪い。かつて東洋では、精神性が尊ばれた。たとえば、「剣道」「弓道」はスポーツというよりは「道」であり、単に勝ち負け以前に、自己と向き合うことに価値が置かれていた。精神主義は合理主義に押されて古臭い感じがするけれども、自己の心のありようと向かい合うことは意味のないこととはいえない。

さて、内向・外向という視点から学ぶること、それは、生まれつきの傾向が人にはあり、たとえ担任といえども、どちらかの傾向を強く持ち、社会あるいは教育界もどちらかの傾向をもつ。そこに評価が生じるが、ときに自分の視点を相対化すること、周囲の価値観を一度括弧に入れてみることで、生徒理解に重要であるといえよう。とくに不登校の子どもの中には、内向的であるがために、頑固とか遅いとか、協調性がないとレッテルを貼られていることもある。内向的な子どもは、たとえゆっくりでも自分自身で理解していくことによって自己評価が高まるし、たくさんの友達は必要なく、少数の親しい友で十分なのである。個性の尊重とは、自分の理解しにくい子どもを理解する努力なのである。

かわさきT'sスクエアで
授業について
一緒に話しませんか？



◎ 平成23年12月16日(金)

★ 5年経験者研修終了後、センターの指導主事と一緒に、魅力ある授業について話しませんか！
時間は30分！ 研修終了後にお声かけします！

とっておきの
ネタを用意し
てます！
お楽しみに！